

シークレット・オブ・ウーマン (1952)

KVINNORS VANTAN

SECRETS OF WOMEN [米・114分]

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 スウェーデン

色彩 B&W

時間 108分

初公開日 1988/04/30

公開情報 エンボディメント・フィルムズ

【解説】

88年によく日本公開された、ベルイマン充実期のさきがけとなる軽快な恋愛オムニバスの小品。初期のメロドラマから「夏の遊び」の達成を経て、G・フィッセルの自然美を捉えるカメラは冴えまくり、ふくらみのある語り口の魅惑的な一編になっている。郊外の小島の別荘に、夫たちより先に来てバカンスを送っているスウェーデン有数の富豪一家の妻たちが、それぞれの“愛の秘密”を持ち寄って語り合う。一家の長女ラケルは夫の他に愛人がいて、ときめきの日々をすごすが呆気なく捨てられた。不倫の事実を知った夫は彼女に詰め寄って、自殺をほのめかして小屋に立て籠もるが、兄の説得でしぶしぶ出てくる。彼が言った言葉は、裏切られるより孤独の方がなお悪い。それに誘われて、一家の末弟の妻となったマルタは、夫マルティンとのなれそめや、芸術家の彼の横暴さ、妊娠し一人で子供を生もうとしたことなどを語り、最後、出産の直前に駆けつけた彼との和解を、妥協だったか、とほくそ笑む。この挿話の幻想的かつスピーディーな語り口は見もので、いわゆる産みの苦しみの中、幸福な家族のイメージを見た途端、赤児が取り上げられていたーというショットが痛快。ついで、一家の総領、長兄の妻カーリンの回想はふくよかなユーモア輝く好編で、会社のパーティの帰り、アパートのエレベーターに閉じ込められた中年夫婦のやりとりを、ほとんどワンカットで撮っている。夫に、不倫の経験がある、と偽りの告白をすることで、彼の女遊びを暴露させる妻の手のひらの上に、自信家の夫も結局は乗っかっているだけなのだ。そして、一家の末娘、まだ17歳のマイが恋人との仲がかなわぬなら駆け落ちだといきまいて、彼と湖上をボートで漕ぎ出すところで映画は終わる。それすらも、大人の視点から見れば、夏を楽しみたいだけ、と映るのである。

【クレジット】

監督	イングマル・ベルイマン	Ingmar Bergman
脚本	イングマル・ベルイマン	Ingmar Bergman
撮影	グンナール・フィッセル	Gunnar Fischer
音楽	エリック・ノードグレン	Eric Nordgren
出演	アニタ・ビョルク	Anita Bjork
	カール＝アーネ・ホルムステーン	
	ヤール・キューレ	Jarl Kulle
	マイ・ブリット・ニルソン	Maj-Britt Nilsson
	ビルイェル・マルムステーン	Birger Malmsten